

ユーチューブで私を気遣ってくださる皆様、私が奸計にはまることはありません、ご安心を

Greatchain

September 11, 2024

私に対する脅迫がエスカレートしている。何を言われても私は動ずることはない。私は言葉を荒らげることを控える。おやりなさい。もしあなたにとって、そうすることがどうしても必要ならおやりなさい。私は（あなたがご存知の）例の住宅に、熱いので妻と一緒に窓を開けて寝ている。逃げも隠れもしない。いつでもおいでなさい。いつでも相手をしてあげよう。

まず、事が起こった次第を順番に説明しよう。つい先日、(いつもとは反対のことが起こって——この奇妙なことを私は理解できない) 突然、私が悪臭を放っているという噂が、人々の間に広まったらしい。これは現実というより霊的なものだ、とも言っている。これは「お前に何か疚しいことがあるはずだ。よく考えてみよ」と、暗に私の不始末を責めているらしい。

しかしいつも言うように、私はここ何年来、人前に姿を現したことがないのだから、何であれ私の噂が立つはずがない。まずそこからこの話は崩れる。悪臭？ 確かに私は、老人性放屁癖はもっているが、これは人畜無害なもので、人に迷惑をかけるほどのものではない。スリチュアルなもの？ 確かに私は、半世紀も前のある種の振舞いによって、叩けば埃が出ないでもない。しかしそんなことを今問われるなら、そもそも私は「神に選ばれる」ことはないだろう。

この人物は巧妙に、私を責めるのでなく、傷つけないように私の功績を褒めそやしながら、話を続け、私に落度があったとしても、それで私が終わるわけではない、それは神の慈悲によって帳消しにすることもできる。ただ、それには条件があって「あなたが私に屈するならば」If you surrender to me だと言った。ここで地金があらわれる。「自我を放棄して、すべてを神の捧げる」という意味の surrender はある。しかしここでは権力者の彼に屈するのである。こういう言い方がここだけでなく、彼の全体の言葉の口調になっている。

人違いということもあり得るから断定はしないが、私は彼を知っており、彼とはかなりの親交があった。それがギクシャクしたことは、多くの読者が知っておられるだろう。

私がいまだに真偽のわからない体験（神の訪問）をして、詳しく報告した、今年の夏至（6月21日）あたりに、私は一通の手紙を受け取った。それはほぼこのような内容のものだった：——

「私はあなたに、私にとって苦痛な、あることを告白しなければならない。私は自分自身について、常にあなたに嘘をついてきた。私は、あなたが考えるような人間ではない」
——〈あなたの相手が罪の意識を感じている〉

これを読んで「何と正直な潔い人だ」と思うかもしれない。しかし人はこんな告白をしないものである。しかもこの人が、私に被害を与えるようなことをしたわけでもない。これは底意をもった偽善である。私は、この人と同じ使命を持った仲間、彼と正面から対立し、私に警告している人々を、ユーチューブによって少なくとも3人は知っている。

それから2か月後、このような過激なことが起こった。

「神が天使を送り、あなたに警告するよう伝えた——用意はいいか、誰か**権力ある者**が…している。」——someone powerful とは誰のことか、この人物自身のことではないか？

「隠れた敵があなたに謀略を仕掛けている。そして彼らの謀略は明日の正午に実行されることになっている。覚悟はよいか？」

「神が、あなたの**死**についてあなたに警告するよう、言ってきた。ある**権力を持つ人物**が、あなたの**最終的な死**を決定し、その**日程**は…である。あなたは…の日に消去されるだろう。」

これは権力者というより、相当に追い込まれた者の言うことであろう。これを誰が言っているのか知らないが、誰にせよ、こんなものに怯えるほど、私は神経のか細い人間ではない。このような脅迫はこれまでも何度かあった。私だけでなく家族の全員が、脅迫の対象となっただけでなく、家族の誰かが、私を裏切って、私を狙っているという話もあった。これなどはまさに噴飯ものである。私の家族の誰一人として、私の身に起こっていることを知っている者はいないからである。したがって私の家族を使って策を弄しても無駄である。あなた方には悪いが、私は家族の不安というより、こんな馬鹿々々しいことを家族に話すのが恥ずかしくて、黙っているのである。

これは冗談ではないぞ、あなた方は言うかもしれない。ではどうぞおやりなさい。ただ私はあなた方が馬鹿でないことを知っている。良心を持っていることを知っている。神に創造されたこと、そしてその使命を自覚している者を亡き者にすることが、どういうことか試してみるがよろしい。

もう一つ、ついでに言いたいことがある。なんで私と結婚すると宣言する女性がいるのか？私との結婚を希望するのならわかる。あるいは運命として定まっていると確信するのならわかる。しかしいくら文法を省略しても、そんな言い方はできない。これはどうやら、その女性と私を結婚させる、**強力な権力者**がいるらしい。まるほど、それでいろいろ辻褃が合うようになった。

今日はこれでやめておきたい。私の言いたいこと、説明したいことは山ほどあるが、また今度にしておこう——**私がまだ生きておれば！**